

永田町新潮流 平沢勝栄

俺がやらねば



史上初の米朝首脳会談をめぐり、ドナルド・トランプ米大統領は、北朝鮮の金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長にいったん中止を通告したが、「12日のシンガポール・セント・サ島での開催」が決まった。だからこそ、トランプ

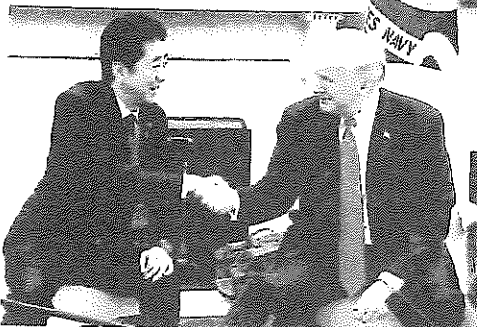
氏も最近まで、金正恩を激しく非難したのだが、首脳会談を前にして、評価する姿勢に転じた。日本にとつては、北朝鮮による重大な人権侵害である拉致問題が、米朝首脳会談でどう扱われるかが最大の関心事だ。マイク・ポンペオ米 국무長官が5月に訪朝した際、北朝鮮

米朝会談拉致問題の進展に期待

は、拘束していた米国人3人を解放した。それもあって、日本では「米国の強い働きかけがあれば、拉致問題が動くのではないか」との期待が高まっている。しかし最近、トランプ氏は、金正恩氏側近の金英哲(キム・ヨン Chol)朝鮮労働党委員長と2時間にわたって懇談した後、記者団に次のように語っている。「人権問題は協議していない」「米朝関係が順調に推移しており、『最大限の圧力』という言葉は、もう使いたくない」

北朝鮮にかなり歩み寄った発言だ。なぜトランプ氏は、ここでも発言を変えたのか。トランプ氏の言動は予測できず、「アメリカ・ファースト」どころか、「トランプ・ファースト」ではないかと思えるときもある。「不世出の救世主」となるか、「自己中心主義の政治家」になるかは、未知数

日米首脳会談で握手する両首脳—7日(共同)



だ。こつしたなか、ワシントンで「6・12会談」直前の7日午後(日本時間8日午前)、安倍晋三首相がトランプ氏と会談したことは、極めて重要な意味を持つといえる。

トランプ大統領は「救世主」となるか

一方、国会は、政府の説明が不十分だったこともあり、森友、加計学園問題の審議が続く。野党の追及は一年以上にわたり、「堂々めぐり」の感は否めない。国民も、食傷気味でないか。今、日本を取り巻く環境は、北朝鮮情勢をはじめ、極めて厳しい。モリカケ問題の事実解明も重要だが、安全保障や国民生活に関わる課題にも力を入れてほしいというのが、国民の願いだろう。

ここに至り、安倍内閣の支持率は下げ止まりしたようだ。これは、「ほかに選択肢がない」という、消極的支持の結果でもある。われわれは傲慢にならず、もっと謙虚な姿勢で国民の期待に応える必要がある。(自民党衆議院議員)